

講義を振り返って

西本裕輝（琉球大学）

本講義で90分を担当した。沖縄と静岡の小中学生の学力を比較し、沖縄が小学生の学力が高く中学生の学力が低くなるのに対して、静岡の子どもたちの学力は小学生の時はそれほど高くないものの中学生になって大きく飛躍するのはなぜかということについて問題提起を行った。

まず驚いたのは、学生の質の高さである。おそらくこの問題については初見であるにもかかわらず、飛び出す質問は実に核心をついている。まさに主体的で能動的な学びとなっている。その成果は発表資料に反映されている。

そして、このような主体的な学びができる環境を整えているのが馬居先生である。これは先生の持つ教育技術でもあるが、一種の才能、人間的魅力としか言いようがないものでもある。僅かな時間しかない中で、ここまで学生が輝いて主体的に動くことができるのは、そうした条件が整った時にだけ起こる、学生と教員の相互作用の賜物であろう。

また馬居先生は、文科省がアクティブラーニングという用語を用いる遥か前から、まさにそうした授業実践を行ってきた方でもある。才能に加えそうした経験も成功の条件と言えるだろう。

さらに条件を加えるとすれば、静岡という教育環境である。私の講義では、静岡の子どもたちが小学生ではそれほど高くない学力が、なぜ中学生で高くなり花開くのかについてふれたが、その理由の一つとしては、小学生時代からアクティブラーニングと呼べる授業を古くから受けており、当たり前のようにそうした素養が身についているということである。これは静岡の伝統的な教育の成果とも言える。

ただ一つ残念だったのは、そうした環境をバーチャルでしか体験できなかったことである。もちろんこうしたオンライン技術によって、国内のみならず国外とも瞬時に繋ぐことができ、ある意味での一体感を味わえるというメリットはある。出張費もかからず、移動の時間も省略できる。それでも本来であれば対面で行われたはずの講義である。対面であればさらに盛り上がったことであろう。

次回はぜひ対面で参加したいものである。